

## 平田地区

### 復興まちづくり協議会・地権者連絡会

#### 議事要旨

■開催日時：令和2年6月29日（月） 18時30分～20時00分

■開催場所：平田集会所

#### ■次第

1. 市長からの挨拶
2. 本日の趣旨とこれまでのふりかえり
3. 上平田川水門の整備工事について
4. 下平田水門周辺の造成工事について
5. 街区公園の整備について
6. 土地区画整理事業の換地処分に向けて（今後の流れ）
7. 仮設住宅の解体スケジュールについて
8. 下水道受益者負担金について
9. 砂防激甚災害対策特別緊急事業の事業概要について
10. 意見交換

## 意見交換（住民から市への質問と回答）

### 質問 1

尾崎神社の第1の鳥居があった県道に上がる道路のところに避難道路を造るという話だったが、その話はどうなっているのか。

### 回答

そちらは、市道認定にもなっている道路なので、管理者である建設課と協議をし、どのような形で整備するのか、後ほど回答します。

→平田4号線については、防潮堤工事に伴い乗り越し部分等を整備中であることから、整備完了後に現地確認のうえ調整してまいります。

### 質問 2

国道45号沿い南側（平田小学校付近）の新しい住宅地に造った側溝及び集水桝に、国道から流れてきた土砂等が詰まって溢れるのだが、それは国道事務所のほうで作業するものなのか、市のほうで作業するものなのか。

### 回答

現場を確認し、応急的に側溝と集水ますのごみは撤去してある状態なのですが、国道側からどうしても草や土砂が流れて来てしまう状況なので、対策と今後の対応について三陸国道事務所と協議したいと考えております。

### 質問 3

県道桜峠平田線にある交差点の平田集会所方面からくる道路側の一時停止ラインは、現在の位置だと右折車と接触する可能性があるので少し下げてもらいたい。

### 回答

一時停止ラインを管理している公安委員会と協議をし、公安委員会から回答がありましたら追ってご説明します。

### 質問 4

君ヶ洞道路のところに防火水槽ができたが、未舗装になっている箇所があり、大雨や台風などの自然災害のときに、その道路が川のようになって、その後、でこぼこに変形するのだが、舗装をすることはできないのか。

回答

その箇所が市道になっているか確認し、市道であれば、建設課と協議し、対応を検討します。

→市で確認したところ、こちらは市道ではなく、消防が火災時に利用する道路であるため、今後の取扱いについては、消防と協議のうえ、検討いたします。

質問 5

君ヶ洞道路のところの未舗装になっている箇所をそのままにしていたら、いざというときに消防車が上がっていけなくなるのではないかと。

回答

防火水槽管理者としてどう考えるのか消防と協議しながら後ほど回答します。

質問 6

こども園の方からの避難場所は、現在、君ヶ洞高台になっているが、雨風が防げないので、見直してもらえないかと。

回答

市内に緊急避難場所が七十数か所ありますが、その全てが建屋ではなく、一時的に避難をし、その後落ち着いた段階で避難所に移動するという考え方で避難場所を設定しています。

避難場所の見直しについては、平田の応援センター所長含め、庁内で議論した上で回答します。

質問 7

平田小学校に避難する際は、校舎の3階に避難するということができないかと。

回答

避難場所については、垂直避難という考え方もありますので、質問6と併せて検討します。

質問 8

平田小学校へ避難する際に入り出すところが、現在は正門しかないのですが、こども園のほうからも入れるようにしたらどうか。

回答

平田の応援センター所長含め、庁内で議論した上で回答します。

質問 9

資料34ページの図によると砂防堰堤は3つできるということなのか。

回答

資料の図は、砂防堰堤の働きについての流れをイラストで示したもので、3つできるという事ではありません。

質問10

砂防堰堤は下流側に1つしかできないのか。

回答

市道より下に1つ、それより上に1つ、合計2つの砂防堰堤を計画しております。

質問11

市道より下に造る砂防堰堤は、もともと暗渠があるところに造るのか。

回答

暗渠の入り口の少し上側に計画しております。

質問12

砂防堰堤の整備をするにあたり、国土交通省管理の土地を工事用の道路にすると作業が楽になるのだが。

回答

工事をするときには道路が必要なことから、いただいた意見を踏まえ、設計を進めていきたいと考えております。

質問13

昔の幼稚園のところから上がっていく市道の舗装したところが、えぐれて裸になっているので修理してもらいたい。

回答

市道ではないため、管理しているところを確認し、対応するよう要望したいと考えております。

質問14

区画整理区域内の街灯は今後、現在よりももっと整備されるのか。

回答

区画整理の区域内の街灯については、全て設置済みです。

質問15

みずかみから尾崎白浜に行く県道には街灯がなく、夜帰ってくるのに暗くて怖いという声も聞いているのだが、ここに街灯が整備される予定があるのか。

回答

県道のため、県の道路管理者にその旨を伝えます。

質問16

新しくできる公園のどの部分に街灯がつくのが分かれば、これから町内ではどこに防犯灯をつけていけばいいかという参考になるので、教えていただきたい。

回答

公園の担当者から、後ほど設置場所を説明しますので、それを踏まえて、町内会で検討していただきたいと考えております。

質問17

平田集会所の向かい側の山に上がっていく旧商業高校のほうにつながる道路に街灯を設置してもらえないか。

回答

街路灯に限っては、道路の交差点など道路上危ない場所しか交付金などでの設置が認められず、現在設置しているところで全て街路灯設置済になります。それ以外の部分につきましては、市からの補助もありますので、町内会で設置、管理する防犯灯という形で、そちらを活用して設置していただくこととなります。

質問18

第4号公園とみずかみの信号機のところは、もともと大雨などに対処できるよう側溝はできているはずなのだが、区画整理前から必ず決壊するので、大雨警報が出る前に流木等を撤去すればいいと思うが、関係の管轄に指示してほしい。

回答

君ヶ洞川側国道手前のスクリーンについては、市の管理になりますので、市が対応しますが、4号公園の暗渠管の管理者は県になっていますので、市、消防、県と調整して対応します。

質問19

平田地区は、実態として地形的に避難できる場所がなく、孤立した場合などを考えると、低いところを通らないで国道に上られる避難ルートを作ってもらえると安心感がある。

回答

平田地区に限らず、市内全域でそういった状況になっていることは事実であり、それを踏まえて、それぞれ行政としてできる限り対応したいと考えております。

ただ、住民の皆様の一つお願いするのは、やはりそれぞれがいざというときには、自分で身を守るということを頭の中に入れていただき、あとは市としてもご意見のとおり対応できるか、できないのかを含めて庁内で議論させていただきたいと考えております。

質問20

舗装工事について、雨が降ると3号公園の入り口のところに水がたまってしまおうのだが、その辺りの工事というのは、もうやってもらえないのか。

回答

水がたまる部分等については、工事終了前に、地区全体を確認して、修繕すべき箇所は手直し等していく予定です。

質問21

最近、平田に熊が頻繁に出没するが、市からは「付近の方は気をつけてください」と言うだけだが、何かあると大変なので、駆除することなどは市で考えていないのか。

回答

熊については、保護をしなければならない動物となっているので、町なかに出てきて悪さするような場合については、県から駆除の許可をもらえるが、そうでない場合は捕獲して、山に戻すというのが原則になっています。

現在のところ、そういった対処法しかないというのが現状です。

## 閉 会

### 【野田市長】

今日は、どうも本当に長時間にわたりまして、いろんなご意見いただきました。ありがとうございます。

今日の大きな趣旨は、大変申し訳ないのですが、平田の水門が遅れるということが皆さんにご理解をいただきたいことをごさいますして、先ほど説明したとおりでございます。コロナの問題とか、台風のためにまた延びてしまうということでございますが、今度こそ最後にしたいと思っておりますので、二度とまた遅れるような話はしないように最大限努力をしていきたいと、こう思っておりますので、よろしくお願いをしたいと思えます。

それに伴いまして、このまちづくり協議会もずっと回を重ねてきたわけですが、冒頭申し上げましたとおり、令和2年度で全て完成だという話をしているわけございまして、釜石市内は21地区あります。平田とか、東部とか、鶴住居とか、21地区あるのですが、毎回こうしたまちづくり協議会を開催して、今日まで来ておりましたけれども、最後完成したらば平田地区が完成したということで、このまちづくり協議会もそろそろ締めることも考えていかなければならないなど、こう思っておりますして、皆さんと気持ちよく会を締めるにはどうしたらいいかということ今後町内会の会長さん含めて、皆さんと考えていきたいと思っておりますので、まずは令和2年度に復興が終わるように、今後ともよろしくお願いをしたいと思えます。

今日出されました様々な意見がありましたが、一つは避難場所ですよね。避難場所については、東日本大震災を契機に国も大きく変わりました。いろんな反省点を踏まえて変わったわけです。その変わった原因は、釜石の防災センターのことも大きな要因ございまして、例えばさっき避難場所と言っていますけれども、避難場所にはいろんな避難場所があつて、津波のための避難場所なのか、大雨とか洪水のための避難場所なのか、違うわけですよ。

それから、避難場所にも緊急の避難場所なのか、避難なさった後そこで生活をするのも避難場所だったので、前は。今は、緊急避難場所と一次避難場所、二次避難場所と名前が変わりまして、さっきこども園の子供たちが行くのは緊急避難場所、最初に避難する場所なのです。その後、災害が収まった後にどこに行くかは、またこれ考えなければならぬわけですが、こんなふうに面倒くさいのです。それを釜石市がここが避難場所だなんて言うと、後になってそうでないのにここが避難場所だなんていうことを誤解与えてしまうと、とんでもないことになるわけで、これは鶴住居の防災センターがそうだったわけございまして、これは大きな反省点です。

それで、誰もここが避難場所だなんていうのは、はっきりと言えなくなってしまって、言われたたびにちゃんと答えればいいのですが、なかなか答えられない。そこで、もしかして誤解を与えたら大変なことになりますので、避難場所ということ指定するときは、ちゃんと皆さんと協議して、そして書き物に残してちゃんと皆さんにお伝えをすると、こういう流れになっていますので、その点ぜひご理解をいただきたいと思います。

ただ、そういうことをやっていると、「じゃ、どこさ逃げたらいいんだ」と、こうなるわけでごさいます、逃げる場所なくなるわけです。特に津波もそうなのですが、今回大きく変わったのは河川です。河川の洪水、これが変わりました。今までは、100年に1度程度の洪水のことを想定して、多分ここはいいだろうと、ここなら安全だというふうなことを伝えてきたのが、今1,000年に1度になりました。1,000年に1度ということは、レベルが高くなるのですよ、とんでもない雨の量が降るといふ想定なのです。だから、甲子川は全域洪水になります。鶴住居川も洪水になります。これは小川も全部洪水になって、今ある避難場所は全部使えなくなっていました。そんなふうな、今までとはちょっと変わってきたのです。レベルが高くなりました。津波もそうです。津波も、この間もちょっと議論があったのですが、防波堤とか、防潮堤が壊れたときのシミュレーションが出ていました。壊れないように造っているはずなのですが、壊れたらどこまで津波が来るのかと。そうしたら、もう逃げる場所ないわけです。そんなことがあって、なかなかちょっと今言葉に詰まるわけですが、そうはいつでも逃げる場所もつくらなければなりませんから、今そのために検討させてもらっているということでごさいます。

万が一の場合を考えれば取りあえず、例えば今日大雨が降ったり、洪水があったり、あるいは津波があった、では今来たらどうするのだという話のときは、さっきお話がありましたとおり、必ずしもあそこが避難場所だからといったって、必ずしもあそこが避難場所だからといって、必ずしもそこが安全になるとは限らないということで、今は分散避難という言葉があって、どこが危険かというのは自分で考えなさいと。避難場所のほうが危険かもしれないから、今自分が住んでいる家のほうがもしかしたら安全かもしれない、だったら家にいなさいと。あるいは車に乗って、高速道路に行きなさいと、これ分散避難と言うのですが、今までは避難場所というところに避難をするのが避難だと、こう思っていた方も多いと思うのですが、そうではないのです。今は、危険なところから安全なところに自分で考えて逃げなさいというのが避難行動に変わっています。このことを地域の皆さんにもっと詳しく話をしていかなければならないのですが、コロナのためになかなか集まる機会がなくて、今まで延びてしまいましたが、近々そういう会を開催していかなければならないと思っておりますので。新聞とか、テレビではしょっちゅうこの話をしているわけですが。

もう一つ変わったことがあります。このコロナのために、避難場所も今まではもうとにか



くぎっちり集まったわけです。今は、1人のスペースが2メートルだったかな、隣の人とは1メートルか2メートルぐらいの間隔取りなさいと。そうしたら、学校の体育館に皆さん避難しても今までの半分も入らない、そんなことなのです。ですから、これも大きく変わってしまいました。

いずれちょっと避難ということについては、そういったいろんな意味がありますので、今後皆さんといろいろと協議していかなければならないと思いますが、町内会長さんが新しく代わられたということで、大いに期待をしているところでございます。いわゆる自主防災組織というものがあるはずですので、そういったことを地域の皆さんとぜひ話をしていただけだと思います。

ただ、先ほど話があったこども園の避難の在り方とか、あるいは学校の1か所だけではなくて、2か所でも3か所でも、そういった通路を確保するというのは非常に大事なことだと思っていますので、これも含めて我々としても検討させていただきたいと、こう思っております。

それから、今回は県のほうで、旧商業の上に砂防ダムを造ってくださるということで、我々としても非常に安心をしているところでございますが、ただあその場所は先ほど話がありましたとおり、いつも必ず決壊をして下の方々に大変ご迷惑をおかけしているわけですが、今回はさっき説明があったとおり、ちゃんと水の流れをよくするようになりました。工事は終わっています。ただ、上のほうがちゃんと側溝に入ればいいわけですので、入るところが大きな課題になっていました。

さっきごみが詰まったらどうするのだという話でございますけれども、昔は、消防団の方々が一生懸命やってくれたのですが、今は消防団も自分の身が危なくなったら、もう現場に行かないと。とにかく災害が発生したら、例えば昔は津波だといえ、もう海に行ったり、いろんなことをしたと思うのですけれども、今は行かないことになっています。行けないことになっています。警察ももう出ません。そういうときは、東日本大震災のときは交通安全の市民の皆さんがわざわざ市民のためにと道路に出て、交通誘導して、その方が亡くなったりしていましたが、そういうこともあって、今は警察も、あるいは消防団もそういう危険なところには行ってはいけなと、そういうふうになっています。

ですから、さっきお話があったとおり、安全なときは行って、ごみを取ってもいいと思うのですが、ある程度の危険性を察知したら、もう誰も、消防署も行けません、行けません。行かせたら、行かせた人の責任になりますから、これは大変なことです。ですから、大変申し訳ないのですが、今までの考えはちょっと変えなければなりません。

ただ、そうはいっても、今言ったとおり明らかに原因が分かるのであれば、やっぱり常日頃からごみを取るとか、事前にそういう対応をするということは大事だと思いますので、そ

れは消防団とか、消防署の皆さんにもそのことはお伝えをさせていただきたいと思っていました。

こうした場所については、今日一応皆さんにお伝えしているわけですが、今専門の方々にお願いして、平田だけではないのですが、市内何か所か、今回の台風で被害が大きかったわけです。鵜住居のほうでは、道路も陥没して、亡くなった方もおられますので、検証委員会というのを立ち上げて、今専門的な見地から調査をしてもらっています。その結果、ここの場所はこうしたほうがいいのか、いろんな提言をいただこうと思っていまして、平田も入っていましたので、専門の先生から何かご指摘があったら皆さんにそのこともお伝えして、その提言どおりに改良工事ができるのであればいいわけですが、もちろんそのようにしたいと思いますが、そのためには財源が必要で、何十万円とかというならいいのですが、何億円という話になると我々ではなかなか手が届かない部分があります。ただ、何ができて、何ができないかということをお皆さんにはちゃんとお伝えをしたいなと、そういう集まりも設けさせていただきたいと、こう思っておりましたので、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

最後に、街灯の話がありました。街灯については、さっき話がありました道路のところに立てるのが街灯です。中のほうに立てるのは防犯灯というわけですが、街灯については道路の工事と相まって設置をさせていただきまして、防犯灯は必要なところは町内会のほうで、ここが必要だというようなことで、町内会も負担があるわけですよ。今回町内会の皆さんの負担が多くなると、町内会の財源によって立てたくても立てられない場所が出てくるといふことがありますので、そうではなくて市のほうで、ある程度の数はちゃんと市でつけますと。それを見ながら、町内会のほうで足りない部分は町内会のほうで足してもらおうと、こういう考え方でやっていきたいなと思ひていまして、これはまちづくり協議会のほうでも、その話させていただきたいと思ひていまして、町内会の会長さん、後でちょっとその辺ご相談しながら、市で立てるもの、それから町内会で立てるもの、これをちゃんと整理していきたいと思ひていまして、よろしくお願ひをしたいと思ひます。

まず、そういうことで、今日はいろんなご意見いただきました。これらをまとめながら、可能な限り市としても対応させていただきたいと思ひていまして。

今後のことですが、冒頭申し上げましたとおり、コロナの第2波、第3波が来る可能性もありますので、どうぞ引き続き感染症予防対策には十分協力をさせていただきながら、またこうした集まりができるように、よろしくお願ひを申し上げまして、閉会の言葉に代えさせていただきます。

本日は、本当にありがとうございました。